





2. 洪水ハザードマップに書かれている内容について学習する。

○浸水想定区域

洪水は氾濫によって浸水の可能性がある区域とその程度(想定される水深)が書かれています。

○避難場所

洪水時に避難する場所が一覧表になっていると同時に、地図上に印で表されています。

○連絡先

役場や病院、消防など、いざというときの必要な連絡先が一覧表になっていると同時に、地図上に印で表されています。

○避難情報の伝達方法

避難勧告や避難指示がどのような方法で連絡されるか、記されています。

○避難時の心得

避難するときの注意事項が記されています。



3. 洪水ハザードマップ上で危険なところはどんなところか、グループで話し合う。

…浸水想定区域の浸水の程度が大きいところはどんなところか見てみましょう。川の近くや土地が低いところなどが相当します。



4. ハザードマップ上で自宅の位置に印をつける。

学校や避難所も分かりやすく印をつけたり着色したりする。



5. 自宅から避難所までの間にどんな危険箇所があるか確認し、避難する際の経路に着色する。



6. 分かったこと(危険箇所や災害時に注意すべきことなど)を発表する。

疑問に思ったことも積極的に発表し、災害時の避難について実感をもつ。



**期待される成果**

- 普段見慣れている街を水防災の視点から見直し、水災害が発生したときにより安全な場所を理解します。
- 自宅・学校・避難場所・河川の位置関係を把握し、安全な避難経路を考えます。
- 水災害に対する普段の心がけと避難時の心得を理解します。

## 水防災実験素材

**発展学習：**ハザードマップを見ながら実際に避難所まで歩いてみる。

…実際に歩いてみるとマップに記されていない危険箇所の位置も分かります。地下道や用水路、マンホールのふたなどの位置をハザードマップに記入しましょう。自宅から避難所までの所要時間もはかっておきましょう。



### 学習に際してのポイント

多くの市町村ではハザードマップを公開しています。北海道の洪水ハザードマップ公表状況は、各市町村役場に問合せのほか、北海道開発局のホームページ([http://www.as.hkd.mlit.go.jp/chisui04/top\\_frame.html](http://www.as.hkd.mlit.go.jp/chisui04/top_frame.html))などを参照ください。洪水ハザードマップは、各市町村役場で入手可能です。

洪水ハザードマップには、洪水になりそうな場所、避難する場所、避難に関する情報や心得など、有効な情報が書かれています。

「普段の心がけ」と「避難の心得」は、読み上げて記憶に残るようにしていただくの良いと思います。「普段の心がけ」は、非常食や持ち出すものの準備、身の回りや家の周囲の確認、避難所や避難に使うルートの確認などが記されています。「避難時の心得」には、正確な情報収集と場合によっては自主的に避難すること、避難の呼びかけに対して注意すること、避難の呼びかけに際しては速やかに避難すること、などが記されています。

帰宅後に児童が話すことで、家族で避難経路を話し合う機会ができ、防災意識が高まると思います。

### ！注意事項！

※発展的学習は校外での活動のため、他の校外活動に準じて交通安全に留意するなどの安全措置を図りましょう。